



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2013/11/26(火)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 132

「第 65 回 北海道道民バスケットボール大会を観戦して」

指導者育成専門委員
泉 春美

今年で第 65 回を迎えた道民大会。今年は男子 A・C が札幌開催 (7 月 19 日～21 日)、男子 B・女子が美唄、岩見沢開催 (7 月 13 日～15 日) となりました。大会には男子 70 チーム、女子 25 チームがエントリー。参加者はスタッフと選手を合わせて 1,500 名を超えるという、まさに北海道で最大の大会だと言えます。

さて、今回 TACTICS を執筆させて頂くにあたり、全試合の観戦は不可能だったため女子決勝とそこから得た学びについて書かせて頂きます。

今年の女子決勝はアカシヤクラブと Thirty Girl の対戦となりました。

アカシヤクラブはノーシードからの出場となっていますが、平成 25 年 3 月に開催された全日本クラブバスケットボール選手権では全国 3 位を獲得してきた地力のあるチームです。Thirty Girls は実業団経験もあるママさん選手が多く活躍し、ゲームテンポのコントロールに優れたチームです。この 2 チームは長年こういった決戦の場を何度も戦っており、分析済みの相手に対して、どう戦うのか気になる一戦となりました。

試合は両チームとも 3-2zone Defense でスタート。アカシヤクラブからすると Man to man 慣れたチームへの仕掛けなのか…Thirty Girls はディフェンスのマッチアップを考えた策なのか…これは私の勝手な推測ですが両チームの思惑を感じました。両チームとも相手の Defense に対し Zone Offense をやり込んだ感じはなかったのですが、コート内の選手たちは落ち着いてすぐに対応。アカシヤクラブはボールを内外角に散らしながら得点。Thirty Girls はハイポストを起点に崩して 1Q は 14-12 でアカシヤクラブ 2 点リードと互角の展開で終了。

ところが 2Q に入るとアカシヤクラブの Defense が Thirty Girls の Offense の起点となっていたインサイドの動きを封じ込め、Thirty Girls を 5 分間ノーゴールに抑えました。Thirty Girls は立て直しを図るものの相手を上回るようなチーム全体の修正までに至らず 39-21 でアカシヤクラブが大きくリードし前半終了となりました。

後半、Thirty Girls は引き離されそうな雰囲気を一蹴する Defense から積極的にゴールに向かう Offense を展開。更に 4Q ではオールコートで仕掛け、ボール運びを困らせる Defense。Thirty Girls は主力 2 選手を負傷で欠き、戦力が少ないながらも、最後まで戦う意地を見せました。しかし、前半のビハイドは大きく 72-50 でアカシヤクラブ勝利で試合終了。アカシヤクラブは道民大会 10 回目の優勝となりました。

試合を振り返ると、アカシヤクラブは試合中に有効なプレーを判断し、チャレンジしていきました。2QでのDefenseの仕掛けが機能して点差を広げ、心理的にも優位に試合運びが出来ました。後半、若い選手がプレッシャーに対し崩れかけましたが、経験豊富な選手が的確なプレーと声かけでうまくフォローしながら進めていたように感じます。一方、Thirty Girlsは2Qに失敗の不安や決断の迷いがでてしまい、その実力を消されてしまいました。後半は18点差を追撃すべく、新たな戦略で選手が積極的になりプレーも良い方向に変化しました。

この試合から私は自チームの強み、弱みも分析しリスクマネジメントしておく重要性を再確認しました。特に弱みにつけ入れられた時や逆境への対策は必要です。個人のファンダメンタル強化は勿論のこと、チームで共通理解のもと協力して克服できるものを準備しておけば、パニックを防げるかもしれないし、最小限にとどめておくことが出来るはずです。自分が指導しているチームでも、準備できることはやっておく必要性を感じたのでした。

また、試合からメンタルとパフォーマンスが密接な関係であるということを感じ、以前、当部の技術顧問である倉島先生のコーチングで学んだことを思い出しました。

それは、ある日の練習試合で「ミスしてもいいから思いきりプレーを」と選手に伝えたのです。対戦相手は全く手も足も出ないようなレベルではありません。その言葉を受け取った選手は気持ちが軽くなったのか、とても良いパフォーマンスにつながったことがありました。私は勝負がかかったところで確実にプレーできる選手育成ということが頭にあり、今のチームには「ミスしてもいい…」という言葉は使っておりませんでした。コーチは選手のタイプをよく観察し、その選手に合った言葉やタイミングを見つけることが重要です。選手が自分で成長できるような気づきを与えられるようなサポートをするのが一番なのであります。

余談ですが、私が選手だったらコーチに「ミスしていいから思いきりプレーを」よりも「絶対に負けるな」という個人的なアプローチを頂いた方がモチベーション上昇につながり、やるべきことに集中出来るかなと思っております。これは負けず嫌いの性格も影響しているのでしょうか。ちなみに「絶対に負けるな」と同じ意味かと思いますが「絶対に勝て」だとなぜか響きが弱いのです。こういう人もいるということで研究しがいがあるかもしれません。

最後になりますが、今大会の参加者のひとりとして、大会を運営して頂いた北海道バスケットボール協会をはじめ、南空知地区バスケットボール協会、ご協力をいただいた岩見沢市バスケットボール連盟の皆様へ感謝、御礼を申し上げます。

今後もバスケットボールを愛する多くの方々が参加する、応援する、支える大会として、この道民大会をみんなで発展させていきたいと思います。